

# 下野市立国分寺中学校

## 1 学校課題

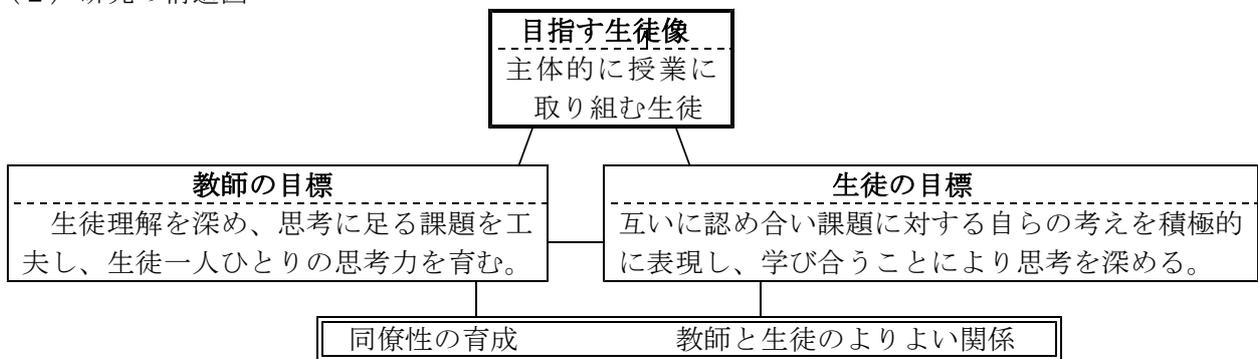
研究主題  
「思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の充実」  
～生徒の学び合いを生かして～

## 2 研究計画

### (1) 研究主題設定の理由

本校では、平成23年度に「新学習指導要領推進事業」実践モデル校に指定され、「言語活動の充実」に取り組み、生徒の思考力・判断力・表現力を育ててきた。今年度は、さらに研究を継続すると共に、学校全体として共通理解の元、言語活動を充実させるための効果的な学習課題を工夫・設定していくことや、話しやすい雰囲気作りを意識した学級経営の充実を目標に設定した。

### (2) 研究の構造図



### (3) 研究計画

月	実施内容	参加者
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度学校課題の検討</li> <li>教員を対象とする模擬授業の実施（職員研修）</li> <li>学習集会（学びの作法、コの字型機の配置確認）1年生のみ</li> </ul>	学習指導部 全職員 研究主任
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校課題の提案・研究計画書の再確認</li> </ul>	研究主任他
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業研究会 6月4日（水）</li> <li>指導講師 佐藤学先生（学習院大学教授）</li> <li>1年…数学 2年…社会（焦点授業） 3年…理科</li> <li>要請訪問 1年…技術家庭 6月18日（水）</li> <li>指導者 1年…技術家庭</li> </ul>	全職員
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上プラン作成（とちぎっ子学習状況調査結果より）</li> <li>授業アンケート（A期）</li> </ul>	全職員
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>茨城学びの会夏期研修会参加</li> </ul>	6名参加
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回校内授業研究会 10月17日（水）</li> <li>指導講師 村瀬公胤先生（麻布教育研究所）</li> <li>2年…理科 3年…英語</li> </ul>	全職員
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>S&amp;U授業研究会 2年道徳 12月3日（水）</li> <li>指導者 久保田善彦先生（宇都宮大学教授）</li> <li>授業アンケート（B期）</li> </ul>	全職員 市内教職員 全職員
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修 今年度の成果及び次年度の学校課題検討</li> </ul>	全職員
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート（C期） ・次年度の学校課題決定</li> </ul>	学習指導部

### 3 研究の実際と成果

#### (1) 教科部会、学年部会を中心とした授業づくり

##### 〈共通課題と発展課題を取り入れた授業展開〉(一部抜粋)

教科	学年	学習内容	共有課題	発展(ジャンプ)課題
数学	1	正負の数の加法 現法	3×3の魔方陣のルールを知り、魔方陣を解く。	3×3の魔方陣を好きな数字で作る。
理科	3	塩酸の電気分解	塩酸を電気分解すると、それぞれの極に何ができるか。	電気分解により水素と塩素が発生する現象をモデルで説明する。
社会	2	太閤検地と刀狩り	刀狩りがどのような政策で、なぜ必要だったか考える。	資料をもとに、秀吉の政策から反乱や一揆につながるものを探し、その理由を考える。
数学	2	三角形の合同の条件	長方形の紙を対角線で折り出来る三角形の合同を証明する。	対角線以外で折ってできる2つの三角形の合同を証明する。
英語	2	接続詞 if と理由を説明する because	海外に行くとき、どこへ行き、どんなものを持っていくかを考え英文にする。	無人島に行くなら何を持っていくべきかを考え、理由も合わせて英文を作る。
理科	3	力と物体の運動	300 gのおもりを自由落下させたときの速度の変化をグラフ化する。(0～0.24秒後)	300 gのおもりを1秒間自由落下させたときの1秒後の速度と落下距離を予測する。

#### (2) 授業研究会の実施

・授業を提案する先生だけでなく事前授業をふくめ多くの先生が関わって授業を作る環境が整い、授業研究会も生徒の様子を中心とした話し合いになっている。



公開授業研究会の様子(佐藤学先生)

#### (3) 職員研修の充実

年度初めの教員を対象とする「学びの共同体」の授業スタイルの模擬授業参加は、新しく赴任した先生方に共通理解を図るよい機会となった。



授業の様子(2年道徳)

さらに、佐藤学先生を講師として実施した公開授業研究会では、本校職員だけでなく県内から多数の参加者を迎え、今までの研究成果を振り返る良い機会となるとともに、今後の研究の方向性もはっきりした。

#### (4) 通年行った授業アンケート

・生徒が授業をどう感じているかを知り、授業改善のヒントとなる授業アンケートを、A期、B期、C期の3回行い比較することにより、「生徒に寄り添った授業」を意識できるようになった。

### 4 本年度の成果と課題

#### (1) 研究の成果

・全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査の生徒質問紙から、生徒が授業に意欲的に取り組んでいる様子が伺える。また、授業が生徒主体で話し合いの時間も確保されていると認識する生徒の割合が全国や県の平均を大きく超えていることから、本校の研究が定着したという手応えを感じる。また、本年度は、「学びの共同体」の授業スタイルを中心となって推進している佐藤学先生にご指導をいただくことにより、本校の研究をより広い視野で反省することができた。

#### (2) 今後の課題

・先生方が無記名で行った授業アンケート結果では、「分からない時は友人に教えてと言ったり、聞かれたときは相手が分かるまででいいいに説明できた。」や「自分の考えややり方を説明するのは楽しかった。」は、良く当てはまる・ややあてはまるの合計が他の項目と比べると低いので、我々教員が、生徒の実態をふまえ課題設定の工夫だけでなく発表しやすい雰囲気作りも考えたい。